

ゼロ・ウェイストの導入による北インド・ウッタラーカンド州生物圏保護区の環境保全

活動地域  インド

ひろげる助成

3年目

実践

ゼロ・ウェイスト
研修参加人数 **2,000** 人

資源化堆肥化された
ごみ量/日 **200** kg

今年度計画の達成度 **80** %

目標達成度 **80** %



村民を巻き込んだ清掃キャンペーン

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

住民の教育的水準が低く、行政による通常のごみ処理も機能していない地において、ゼロ・ウェイストの理念をコミュニティの主導によって推進すること。

■ 工夫した点

地元の若者による推進チームを形成し、宿泊施設、行政の3方向から啓発を進めた。地元からの信頼と行政からの公認を得られたことで、想定以上の推進が実現した。

課題

北インドの生物保護区では、宿泊施設や観光客が河川や森林にごみを常習的に投棄し、生態系が脅かされている。廃棄物処理法の執行も進んでおらず、解決の糸口がみられない。

目標

ゼロ・ウェイストを基本とする持続可能なごみ処理について啓発を進め、地元当局との協働の中でいくつかの成功モデルを作り出し、広範囲への敷衍を目指す。

活動内容と成果

3年目の本年は、1年目のパンゴット、2年目のパウルガルでの成功例を他地域に敷衍し、ウッタラーカンド州のジム・コルベット生物保護区を中心にゼロ・ウェイストの成功モデルを定着させることを目指した。地元民による推進体制が信頼を勝ち得たことで、周辺地域への拡大が想定以上にスムーズに進み、また、州森林部局の公認を得られたことで、今後の活動継続にも弾みがついた。計30回の研修を実施、延べ2,000人の参加を得て、当初の想定を上回る11の地域で推進体制が築かれ、計7か所のゼロ・ウェイスト宿泊施設が誕生した。



山岳地帯の女性へのゼロ・ウェイスト研修



設置した資源物集積所

全助成期間の活動を振り返って

地域住民及び宿泊施設への研修を軸に、資源物の分別や生ごみ資源化によるゼロ・ウェイストのごみ処理を推進した。1年目2年目で成功例を作り出すことができたため、メリットが可視化され、当初予定を超える地域での導入が進んだ。各所で数百kgのごみ減量が実現し、また成功例を他地域に敷衍するための森林部局による公認も得られたことで、今後のさらなる拡大が現実のものとなっている。

238, Sidhartha Enclave, New Delhi, India
電話: +91-11-2984 2809
E-mail: info@chintan-india.org
HP: <http://www.chintan-india.org/>



今後の展望

観光地でのごみ処理の問題はインド全土共通の課題である。今後もウッタラーカンド州の環境保全の安定的な継続を期するほか、タージマハルで名高いアグラにおいても、観光ガイドたちとの協働により、ごみの削減とゼロ・ウェイストの推進に取り組んでいくことを目指しており、すでに現地とのパイプ作りを開始している。